I 研究の概要

1 研究主題及び副題(2年次/2年計画)

「思いやりとたくましさをもつ児童の育成」 ~ 自他との対話の中で考えを深める授業実践を通して ~

2 主題設定の理由

(1) 今日的課題から

21世紀の変化の激しい「知識基盤社会」において、児童に求められているものは、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力(確かな学力)」「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性(豊かな心)」「たくましく生きるための健康な体力(健やかな体)」、すなわち「生きる力」である。一方、学校におけるいじめ問題はますます多様化・深刻化する傾向にあり、児童生徒の生命を尊重する心や自尊感情の乏しさ、規範意識の低下、人間関係を築

く力や社会性の育成が不十分といった数多くの課題が指摘されている。 そのような中、道徳教育においては、人が互いに尊重し協働して社会を担っていく上で求められる規則や礼儀を学ぶことを通して規範意識を育むことと、人としてよりよく生きる上で大切なものは何か、自分はどのように生きるべきかについて、時には悩み、葛藤しつつ、考えを深めることを通して、自らの生き方を育むことが求められている。

(2)教育目標から

本校の教育目標は、「たくましく未来を拓く児童の育成」である。これは児童一人一人が、身の回りの人やものとの関わり方を考え、将来の夢や志をもち、自立 する姿を見据えて設定されたものである。

児童が、自分の将来を見据え、仲間と協力して、いじめのない日常生活を送ることができる学校を構築することが本校の大きな目標であり、その実現のためには道徳教育を充実させることが必要であると考える。

(3)児童の実態から

本校は、児童数81名の小規模校である。地域に根付いた学校であり「竹馬遊び」や「団七踊り」といった地域に伝わる伝統を継承している。児童は、明るく素直で優しい行動が数多く見られる一方、周りと同じでないと不安に感じたり、思いはあっても自信がないため、自分の考えに従った行動ができなかったりする傾向がある。

(4) これまでの研究から

平成29年度は、以下に述べる2つの視点の下、道徳的価値に対する自分の考えをしっかりともたせた上で、考えを交流させ、多面的・多角的に考えることを目指してきた。

視点1「道徳的諸価値を基に、自己を見つめ、考えを深める授業展開の工夫」

- ①「児童が考えを明確にするための書く活動」の設定
- ②「児童が多様な考え方・感じ方に触れ、自己を見つめるための、意見の交流の場面」の設定
- %2の具体の手立てとして, 白石市の重点施策の一つである「探究の対話(p4c)」を取り入れた。

この「探究の対話」とは、「友達の考えを否定しない」「無理に話さなくてもよい」といったルールの下、全員で円座になり、顔を見合わせて、安心して自分の考えを話したり、相手の考えを受け止めたり、疑問に思ったことを問い返したりする対話のことである。

自信をもって自分の考えを話したり、行動をしたりすることが苦手な本校の児童に、安心して話す場を保障するには「探究の対話」が適していると考えた。またこの対話は、従来の教師主導ではなく、子どもが主体的に考え、それを伝え合い、感じ方や考え方を深めていく「考え、議論する道徳」に有効な手立てだと考え、取り入れることとした。

①についての成果と課題

《成果》

- ・授業に入る前にワークシートを活用することは、児童が自分の考えを明確に もつことにつながる。その結果、主体的に対話に臨む姿が見られた。
- ・振り返りの場で、自分の考えを書かせることは、授業中に考えたことを整理 することにつながった。また、教師が児童の成長を見取るのに、児童が書い た内容は、有効な手がかりとなった。

《課題》

- ・低学年では「本時を通しての感想」、中高学年では「友達の考えを聞いて、気付いたり考えたりしたこと」など、発達の段階に応じて書かせる内容や量を検討する必要がある。
- ・対話の内容を踏まえて自己を見つめた振り返りを書かせる工夫が必要である。
- ②についての成果と課題

《成果》

- ・「探究の対話」による話合いを明確に位置付けることは、児童が安心して話す場を保障することにつながった。
- ・対話の継続によって、児童は意見を交流することに慣れ、「しっかりと聞いて話す」習慣が身に付いてきた。
- ・児童相互に質問したり、付け加えたりといった、点と点であった発言につながりが見られるようになった。また、自分と異なる意見を聞くことによって、 様々な見方や考え方があることに気付く姿が見られた。
- ・授業中の発言量やワークシートの書き込みが増加した。自分に都合のよくないことも述べるなど、児童の本音が対話の中で見られるようになった。
- ・道徳の時間以外の指導においても、児童の話を引き出す教師の姿、また相手 の話を傾聴するよう指導を行う教師の姿が多く見られるようになった。

《課題》

- ・どの児童も安心して自分の考えを話すことができる学級の雰囲気を引き続き作っていく必要がある。
- ・道徳的価値について、児童が自分のこととして捉え、考えを深めさせる工夫 が必要である。

視点2 意識調査,自己評価の活用の工夫

- ①「児童に自分自身のよさや他者との相違などを理解させるための,児童の自己評価の蓄積,掲示による共有」
- ②「児童の道徳的実践意欲を高めるための、意識調査やワークシートの吟味・作成」
- ①についての成果と課題

《成果》

- ・ワークシートを蓄積した「こころのあしあと」ファイルは、児童が時折ワークシートを見返し、以前の感想を読み返したり、今の自分の行動と比べたりといった、自己を見つめる材料になった。
- ・書かせたワークシートは、人前で自分の思いをなかなか発言することができない児童の考えを見取る手がかりとなった。

《課題》

- ・ワークシートの壁面掲示による共有は、人に見られることを意識してしまい、 自分の考えを書く妨げとなる場合があった。
- ②についての成果と課題

《成果》

・児童, 教員, 保護者の意識のずれから課題を探り, 改善のための方策を考える ことができた。

《課題》

- ・一時間の中で、自分の考えが大きく変わったり、友達の発言から気付いたこと を記述したりする例は多いとはいえない。ワークシート以外で変容を見取る方 法を探る必要がある。
- ・児童の学習活動の様子や変容が見られてきたことを、おたより等で家庭へも 紹介し、家庭との連携をより一層図っていく必要がある。

以上のことから、今年度は、友達の多様な考えに触れるだけでなく、自分のこととして捉え、柔軟に考え行動する力を対話を要とした授業実践を通して、一層育んでいきたいと考え、本主題を設定した。

3 研究主題、副主題の捉え方

(1)「思いやり」の捉え方

「思いやり」は、学習指導要領においては、「相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手にむけること」と示されている。本校では、相互理解に重点をおき「思いやり」を「相手の気持ちや立場を考え、自分と同じ、または異なる考えを受け入れること」と捉える。

(2)「たくましさ」の捉え方

「たくましさ」については、国語辞典に掲載されている一般的な意味では「体が丈夫で力強い」という意味での捉えが多い。本校では、心の力強さも加味して捉え、「たくましさ」を「物事を多面的・多角的に考え、よい行動を進んで実践しようとすること」と捉える。

(3)「自他との対話」の捉え方

「自他との対話」を以下の二つの対話と捉える。一つ目は、自分と向き合い、明確に考えをもたせることをねらいとした「自分との対話」である。二つ目は、友達の考えをしっかりと聞き、同じ考えや違う考えを交流し合うことをねらいとした「他者との対話」である。

(4)「考えを深める」の捉え方

「考えを深める」とは、ある事象に対して多面的・多角的に物事を捉えることを通して、自分のこれまでの経験や行動を振り返り、自分自身を見つめ直すこと、また持続的に考える意欲をもつことと捉える。

(5)「思いやりとたくましさをもつ児童」について

上記の文言の捉えから、本校の目指す「思いやりとたくましさをもつ児童」の姿とは、他者との関わりの中で、多様な考えに触れ、時に気付き、葛藤し、受け入れる経験を積み重ね、よい行動を進んで実践しようとする姿である。

4 研究の目標

道徳科の授業において、相手を受け入れながら自分の思いや考えを実現していこうとする児童を育てるには、どのように指導すればよいのか、対話を要とした授業実践の工夫に焦点をあてて明らかにしていく。

5 目指す児童像

- 相手の気持ちや立場を考え、自分とは異なる考えを受け入れることができる児童
- 物事を多面的・多角的に考え、よい行動を進んで実践しようとする児童

校内の重点内容項目

A 主として自分自身 に関すること

「善悪の判断, 自律, 自由と責任」 B 主として人との関わり に関すること

> 「親切, 思いやり」 「相互理解. 寛容」

6 研究の視点

以下のような視点で実践を行うことによって、思いやりとたくましさをもつ児童を育成する。

授業実践においては、視点1のみを講じる。

【視点 1 】道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業スタイル (「大鷹沢スタイル」)の工夫

- ① 自他との対話を促す支援の工夫
- ②「あすなろノート」の活用

視点2,3は,授業を支える,または,授業で考えた,知った,気付いたことを日常 生活に生かすために講じるものである。

【視点2】変容を見取るための調査方法の工夫と評価の在り方

- ① 児童, 教員, 保護者対象の「道徳意識調査」(年3回)
- ②「絆アンケート」(年3回)
- ③「発言回数や言動の記録」
- ④「児童評価シート」と道徳科の評価(通信表,指導要録の記入の仕方)

【視点3】道徳的実践につなげる工夫(研究を支える取組)

- ① 道徳教育全体計画別葉の作成と活用(「みやぎの先人集」「防災副読本」の活用)
- ② 学級掲示「道徳コーナー」と校内掲示「思いやりの架け橋」「行事へ向けて」「心をたがやす詩」の設置
- ③「学習のやくそく」の徹底
- ④「対話タイム」(毎週金曜日の朝の活動)への取組
- ⑤ 家庭への道徳に対する意識の啓発(道徳学習参観)
- ⑥「あたり前のことをあたり前に」の指導(下足箱の使い方,無言清掃等)

7 研究の方法

(1)研究の進め方

全学級が、以下の手順で協働による授業づくりを行う。

11 指導案作成

・担任が作成した指導案を学年部で話し合い、修正した後、授業部で再度検討する。

②事前検討会

- ・全教員が参加し模擬授業形式で行う。発問の流れや資料を掲示するタイ ミングなど実際の授業を想定して行う。
- ・模擬授業を受けて改善点を話し合い、学年部で指導案を修正する。
- ③研究授業
 - ・全教員が参観する。動画と文字で記録をとり、事後検討会時に活用する。
- 4事後検討会
 - ・授業参観後に、視点について「良かった点」と「改善すべき点」を付箋 に記入する。
 - ・事後検討会は2つのグループによる「ワークショップ形式」とする。
 - ・授業記録と持ち寄った付箋を基に類型化をし成果と課題を話し合う。
 - ・次時につながるまとめを代表者が発表する。

⑤学年部での振り返り

・事後検討会を基に、研究授業を受けて、次の授業に生かす手立ての中間 評価を行う。

(2) 検証の方法

- ①一単位時間の児童の変容の見取り
 - ・調査部員による動画と文字による授業記録
 - 「児童評価シート」
 - 「あすなろノート」
- ②年間の児童の変容の見取り
 - ・児童, 教員, 保護者への道徳意識調査の実施(年3回)
 - 「絆アンケート」(年3回)

8 研究の組織

組織図(〇はチーフ)

研究全体会

・校内研究について, 全教員で共通理解

研究推進委員会

校長、教頭、佐久間(教務)、我妻(研主)、佐藤由(研副)

・各部, 班から出された提案の精査

研究部 (〇我妻, 大場悠, 嶋津, 佐藤由, 教頭)

・各部, 班から出された提案の検討

授業部 (〇嶋津, 武田ゆ, 長橋, 大場悠)

- ・研究授業検討会の運営
- ・「大鷹沢スタイル」の提示
- ・「指導案」「実践のまとめ」の形式作成
- 「あすなろノート」の形式作成と活用の仕方の提示

調杳部

〇佐藤由、佐久間、小池、日下、晴山、佐藤史)

- 「道徳意識調査」の作成と分析、考察
- ・授業中の発言回数や児童の言動の記録からの変容の考察
- ・「絆アンケート」の実施,分析,考察

環境部

学力向上班

(〇我妻, 佐藤由, 佐藤史)

- ・「対話タイム」への取組の推進
- 「学習のやくそく」の作成

道徳教育班

(〇武田ゆ, 嶋津, 長橋, 晴山)

・ 道徳教育全体計画別葉の作成

- 「みやぎの先人集」と 「みやぎの防災副読本」の活用 の呼びかけ
- ・道徳科の進捗状況の確認

評価班

(〇大場悠, 佐久間, 日下, 小池)

- ・「児童評価シート」の作成
- ・通信表等への記述の仕方の提示
- ・道徳での学びが見える「道徳コーナー」 「思いやりの架け橋」等の設置

学年部

低学年部

(我妻, 武田ゆ, 大場悠, 佐久間)

中学年部

(長橋, 佐藤由, 小池, 教頭, 大場亜)

高学年部

(佐藤史, 嶋津, 晴山, 日下)

- ・協働での指導案作成
- ・実践の振り返りと「実践のまとめ」の作成
- 「あたり前のことをあたり前に」の指導

学校教育目標

たくましく未来を拓く児童の育成

しっかり学ぶ子

思いやりのある子

心も体も元気な子

【今日的課題】

- グローバル化が 進展する中多様 な価値観の人々 と相互に尊重し 合いながら生きる
- ・いじめ問題の多 様化・深刻化
- ・主体的で対話的 な学び
- 「考え議論する 道徳」

【教師の願い】

- 友達のことを理 解できるように なってほしい
- ・理由を明確にし, 自分の考えをも てるようになっ てほしい
- 自分なら何がで きるか考えられ るようになって ほしい

目指す児童像

相手の気持ちや立場を考え, 自分とは異なる考えを受け 入れることができる児童

物事を多面的・多角的に考え, よい行動を進んで実践しよう とする児童

研究主題

思いやりとたくましさをもつ児童の育成

~自他との対話の中で考えを深める授業実践を通して~



研究目標

道徳科の授業において、相手を受け入れながら、自分 の思いや考えを実現していこうとする児童を育てるた めにどのように指導すればよいか、対話を要とした授 業実践の工夫に焦点をあてて明らかにしていく。

本年度の道徳の重点内容項目

A 「善悪の判断,

自律、自由と責任」

「親切、思いやり」 「相互理解, 寬容」

【児童の実態】

- ・明るく素直
- ・ 話をしっかりと聞く
- 消極的
- ・実践力が足りない
- 自分のこととして 捉えられない
- ・自分と異なる考え を受け入れ難い

【保護者の願い】

- ・友達と仲良くして ほしい
- 自ら考え、学ぼう としてほしい

【視点1】

道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを 深める授業スタイルの工夫(「大鷹沢スタイル」の確立)

- ①自他との対話を促す支援の工夫
 - ・事前読み、事前読み聞かせ ・事前アンケート
 - ・大鷹沢の対話 ・役割演技 ・心情スケール 等
- ②「あすなろノート」(道徳ノート)の活用

【視点2】

変容を見取るための調査方法の工夫と評価の在り方

- ① 児童, 教員, 保護者対象の「道徳意識調査」(年3回)
- ②「絆アンケート」(年3回)
- ③「発言回数や言動の記録」
- ④「児童評価シート」と道徳科の評価

(通信表, 指導要録への記入の仕方)

【視点3】

道徳的実践につなげる工夫(研究を支える取組)

- ①道徳教育全体計画別葉の作成と活用 ②学級掲示「道徳コーナー」、校内掲示「思いやりの架け橋」等の設置
- ③「学習のやくそく」の徹底
- ④「対話タイム」(毎週金曜日の朝の活動)への取組
- ⑤家庭への道徳に対する意識の啓発(道徳授業参観) ⑥「あたり前のことをあたり前に」の指導

10 研究計画

(1) 年次計画と研究の経緯

1年次(平成29年) 2年次(平成30年) ○研究主題・目標・視点・ ○研究主題・目標・手立ての見直し 手立ての設定と共通理解 ○研究の視点の改善 ○研究計画の立案 ○研究計画の見直し ○研究組織の編成と各部活動内容 ○研究組織の改善と各部活動内容の計画・実施 の計画・実施 ○授業実践の継続と対話を要とした道徳の授業 「大鷹沢スタイル」の確立 ○授業実践 ○公開研究会 ○公開研究会 ○1年次のまとめと2年次の ○地域教材の開発(「大砲萬右衛門」) ○研究のまとめ (児童の変容の検証, 道徳科の評 見通し 価の在り方) ○宮城教育大学との連携 ○宮城教育大学との連携

(2) 本年度の計画

(2)	本年度の記	
4	/ 3 (火)	研究全体会 (基本構想の立案,年間計画の決定)
	/ 4(水)	探究の対話,ユニバーサルデザイン,情報研修会
	/11(水)	意識調査① ※27日締め切り
5	/10(木)	研究全体会(目指す児童像,視点1に基づく学年部毎の手立ての検討)
	/22 (火)	第1回 研究授業事前検討会【5学年】
	/28(月)	第1回 研究授業【5学年】(5校時)事後検討会
6	/ 1(金)	研究全体会(研究授業の成果と課題の検討)
	/11(月)	第2回 研究授業事前検討会【1学年】
	/13 (水)	第2回 研究授業【1学年】(5校時)事後検討会
	$/23~(\pm)$	道徳学習参観 文部科学省浅見調査官講演会
	/28(木)	第3回 研究授業事前検討会【2学年】【4学年】(【4組】)
7	/12(木)	第3回 研究授業【2学年】【4学年】(【4組】) ※指導主事訪問(B訪問)
	/13(金)	意識調査② ※20日締め切り
	/23 (月)	研究全体会(指導主事訪問の振り返り)
8	/20(月)	授業づくり研修会 ※指導主事研究指定校訪問 (C訪問)
		第7回 研究授業事前検討会【2学年】【4学年】【6学年】
	/27(月)	第4回 研究授業事前検討会【6学年】
	/28 (火)	第4回 研究授業【6学年】事後検討会
9	/ 3(月)	研究全体会(研究紀要の作成について)
	/ 4(火)	第5回 研究授業事前検討会【3学年】
	/10(月)	第5回 研究授業【3学年】事後検討会
10	/ 1(月)	第6回 研究授業事前検討会【1学年】【3学年】【5学年】
	/24(水)	第6回 研究授業【1学年】【3学年】【5学年】 ※指導主事指定校訪問 (C訪問)
	/29(月)	研究全体会(公開研究会に向けて)
11	/ 1 (木)	公開研究会打合せ
	/21(水)	研究全体会 (公開研究会に向けて最終確認)
	/28(水)	公 開 研 究 会 第 7 回 研究授業【2 学年】【4 学年】【6 学年】
	/29(木)	研究全体会(公開研究会のまとめ)
	/30(金)	p4c国際フォーラムin白石(5学年授業提供)
12	/11 (火)	5年研研究授業
	/12(水)	初任研授業検討会(4組)
	/14(金)	意識調査③ ※21日締め切り
	/17(月)	初任研研究授業(4組)
	/25 (火)	研究全体会(各部,班ごと成果と課題)
1	/22 (火)	初任研検討会(4組)
	/31(木)	初任研研究授業(4組)
2	/ 7(木)	国立教育政策研究所指定校研究協議会で発表
	/8(金)	全国小学校道徳教育研究会 第41回研究発表大会(東京)で口頭発表
3	/ 6(水)	研究全体会 (本年度のまとめ 次年度の計画)

11 各学年部の目指す児童像及び手立ての系統性

低学年

部

学 校 教 育

目

標

たくま.

未来を拓く

童

で育成

研究

主

物相 題 事手 ーを多 の気持 凹的・多角的に考え付ちや立場を考え、 思いやりとたくましさをもつ児童の育成~自他との対話の中で考えを深める授業実践を通して~ よい行動を進んで実践し1分とは異なる考えを受け 入れることができる児童

・話を聞き、相手の考えや気持ちに気付くことができる児童

・今、自分のするべきことを理解し、しっかりと実践しようとする児童

○意識調査の結果から

友達と仲よくすることについての意識は高い。一方で、自分のことは自分で行いわがままをせずに生活することや、自分で決めたことを最後までやり遂げることに対する意識は低く、自分自身に関することに対して課題が見られる。

○普段の授業の様子から

人の話を聞くことよりも、自分の考えを発表することへの意欲が高い児 童が多い。しかし、自分の考えを明確に発表できる児童は限られる。

- ・自分の考えと友達の意見とを比べながら聞くことができ る児童
- 自分が置かれた状況に応じ、よいことを選択し、実践しようとする児童

○意識調査の結果から

自分で決めたことを最後まで行うことやうそをついたりごまかしたりせずに生活することについては意識が高い。しかし、自分とは異なる意見や立場を受け入れることについては意識が低い児童が多く見られる。

○普段の授業の様子から

発表意欲が高く、自分の考えを積極的に発表するが、端的に述べることができる児童は少ない。また、「もし自分なら・・・」と考えることができる一方で、日常生活を振り返る対話になると消極的になる傾向が見られる。

- ・多様な考え方があることを理解しながら、相手の考えを 聞くことができる児童
- ・周りの意見や状況から判断し、最善の考えをもち、進ん で実践しようとする児童

友達と仲よくすることについては意識が高い一方で、自分とは異なる意見や立場を受け入れることについては意識が低い。また、正しいと思うことを行動に移したり、うそをつかず明るく生活したりすることについても、他の項目に比べて意識が低い。

〇普段の授業の様子から

授業中の発言が多く、根拠を明らかにしながら自分の考えを述べることができるようになってきている。しかし、発言が他者の意見を踏まえた意見ではないため、児童の発言につながりがなく、対話を深めていく力は十分とは言えない。

中学年部

高学年部

平成 30 年度 研究の視点・手立て

視点 1 (授業の視点)

道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業スタイル(「大鷹沢スタイル」)の工夫

①自他との対話を促す支援の 工夫

- 事前読み聞かせを行うことに よって、本時に向かう土台を 作ることができるようにする。
- ・役割演技を行うことによって,登場人物の心情に迫ることができるようにする。
- ・対話の約束を意識させること によって、安心して思いを話 すことができるようにする。
- 事前読みを行うことによって、課題意識をもたせることができるようにする。
- ・心情スケールやネームカードを用いることによって、自分の立場を明確にさせる。
- 対話で「なぜなら」「自分だったら」という言葉を使って発言させることによって、考えの根拠や自分ならどうするかを発言できるようにする。
- 事前にアンケートを実施し、 その結果を活用することによって、自分の生活を振り返って考えることができるようにする。
- ・「なぜ」「それってどういうこと」という言葉を使い、児童 同士で問い返しながら対話させることによって、考えを深めることができるようにする。

②「あすなろノー ト」の活用

- ・ワークシートを用いて、登場人物のせりふや、登場人物の手紙を書かせることによって、自分の考えをもつことができるようにする。
- ・対話の中で心に残 った友達の意見 った友達が変わっ たことを書かせる ことによって、 面的・多角的な見 方ができるように する。
- ・対話を振り返ってと 考えたことと、今を めることと、今 の生活に生かせる いことを書かて、 ことによっての をもつことに をもつことが るようにする。

視点2

変容を見取るための調査方法の工夫と評価の在り方

- ①児童, 教員, 保護者対象の「道徳意識 調査」(年3回)
- ・児童, 教員, 保護者の意識の変容と差 異を見取る。
- ②「絆アンケート」(年3回)
- ・学級集団や児童の変容を探る。
- ③「発言回数や言動の記録」
- ・児童の発言回数や言動を記録し、蓄積する。
- ④「児童評価シート」と道徳科の評価
- ・「児童評価シート」に児童の様子や発言を記録し、評価の手立てとする。
- ・通信表,指導要録への記述の仕方を探る。

視点3

道徳的実践につなげる工夫 (研究を支える取組)

①道徳教育全体計画別葉の作成と活用

- ・道徳科と学校行事,各教科,各領域と の関連を明確にする。
- ②学級掲示「道徳コーナー」と校内掲示 「思いやりの架け橋」等の設置
- ・道徳への取組を可視化することによって,道徳的実践への意欲付けを図る。
- ③「学習のやくそく」の徹底
- ・対話の素地として、学習規律の定着を 図る。
- ④「対話タイム」への取組
- ・朝の活動(毎週金曜日)や各教科・各領域で対話を実施する。
- ⑤家庭への道徳に対する意識の啓発
- ・学級通信での周知や全校道徳学習参 観,道徳講演会の実施,また児童に事 前読みの課題作りを家庭学習として 取り組ませることによって道徳への 家庭の意識を高める。
- ⑥「あたり前のことをあたり前に」の 指導
- ・下足箱の使い方や無言清掃の指導を徹 底する。

中学年

低

学

年

高学年

12 授業実践

- (1) 第5学年 平成30年5月23日(水) 授業者 T1 嶋津寿克 T2 大場 悠 T3 晴山節子 T4 日下美緒
 - 1 **主題名** 自分に誠実に A-(2)正直,誠実
 - 2 ねらい 対話を通して主人公の行動について考え、誠実に行動しようとする心情を育てる。
 - 3 教材名 「見えた答案」 出典:「新しい道徳5」 東京書籍
 - 4 視点1に基づく手立て
 - ① 事前にずるい行いやごまかしの実体験に関するアンケート調査を実施し、導入で結果を提示することによって、児童が自分自身の生活と教材を関連付けて考えられるようにする。
 - ② 教材を事前に読ませ、授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもって主体的に対話を進められるようにする。
 - ③ 対話の中で出たキーワードをホワイトボードに書いて教師が整理することによって、児童が考える手立てとする。
 - ④ 授業の最後に対話を振り返り、自分の考えを「あすなろノート」に書かせることによって、自分自身の姿を見つめ、自己理解を深められるようにする。

段階	学習活動	・指導上の留意点
	(◎中心発問 ○発問 ・児童の反応)	◇評価(方法)
事前	・ずるい行いやごまかしの実体験についてアンケートを行った。・教材を読んだ感想とみんなで考えたい課題をノートに記入した。・各自が考えた課題の中から、本時で話し合う課題を決め、自分の考えを「あすなろノート」に書いた。	 「ずるい行いやごまかしはしてもよいと思うか」「ずるい行いやごまかしをした経験はあるか」ということについてアンケートを行った。 ・話し合いたい課題を考えさせ、課題意識をもつことができるようにした。
本時 導入 5分	1 事前に実施したアンケートの結果 を提示した。	・アンケート結果を示し、悪いと分かっていても行動してしまう心の弱さを全体で確認し、人間理解を深めた。
展開 30分	2 教材を基に、児童が選んだ課題に ついて対話した。	・「友達の意見を否定しない」などのルールを確認し、 児童が安心して自分の意見を話すことができるよう
	○よしこのテストを見たとき、花子はどんな気持ちだったのか。	にした。 ・思わず見たときの花子の気持ちや返ってきた答案を 見たときの後悔の気持ちなどを押さえ、教材の価値 理解を深めた。
	◎テストは満点だったのに,なぜ花子はみじめな気持ちになったのか。	・満点を取ったのにみじめな気持ちになっていること についても考えさせ、みじめな気持ちになった理由 について話し合った。 ◇主人公の気持ちや立場を様々な角度から捉え、話し
	○つい, ずるい行いやごまかしをしてしまったとき, どんな気持ちだっただろうか。	合っていたか。(話合いの様子,発言) ・導入のアンケートを振り返らせ、児童が実際に体験 した場面について考えることによって、自分自身の 経験と重ね合わせ、自己理解を深められるようにし
まとめ 10分	3 自分の考えをノートにまとめた。	た。 ◇誠実に行動することのよさについて考えていたか。 (発言, ノート)

6 授業の様子

〇花子がみじめな気持ちになった理由を考える場面での話合い

- T1:テストが返ってきて満点だったのに, 花子がみじめな気持ちになったのはなぜだろう。
- C1:自分の力じゃないのに満点をとってしまったから。
- C2:人の考えをうばってしまったから。
- C3:○○くんと似ていて,カンニングをしてしまったから。
- C4:だれも知らないし、いつものようにいい点を取らないと思って見たけど、自分の力ではないから。
- C5:見ちゃったけど書かなければよかったと思ったから。
- T1:C5に質問があって、見たけど書かなければよかったとはどういうことなの。
- C5:見て書いても、自分の力じゃないからみじめな気持ちになったと思う。見てしまったけど、答えを書かなければよかったとも思った。

○アンケートを振り返って考える場面での話合い

- T1: 宿題を忘れて先生が気付いていなくて, 1日中黙っていたときはどんな気持ちだったと思う。
- C1: すごく不安だったと思う。
- C2: ばれたらどうしようと1日中どきどきしていたと思う。
- C3: ばれなければ怒られないと思っていた。
- C4:自分だったら、ばれたらどうせ怒られるからそれなら怒られる前に自分から言う。
- T1:どうして先に先生に言うの。
- C5: ばれても、ばれなくてもどっちみち怒られる。後からばれて怒られるなら自分から言った方がいい
- C6:抱えたままだと1日中つらいから言ったほうがいい。でも怒られたくない気持ちもあるから言い づらい。
- C7:自分も忘れたことをどんどん隠してしまったことがあってつらかった。だから, うそをつかない ほうがいいと思う。







《事前アンケートの結果》

《円座での話合いの様子》

《児童のノート》

7 事後検討会の内容(○良かった点 ▲改善すべき点)

- ○導入で示したアンケートが教材と生活体験を結び付けて考えさせるきっかけとなっていた。また,みんなが同じような経験をしていることが分かり,話しやすい雰囲気が生まれた。
- ○ホワイトボードにキーワードを提示したことで、何について対話しているのかが分かり、児童が話題 からずれることなく考えることができた。
- ○「正直・誠実」は児童にとって身近で考えやすい内容項目であり、自らの生活を振り返りやすかった。
- ▲児童から「怒られるから話した方がいい」という意見が多く出たときに、教師からの発問で誠実に行動することのよさについて考えさせるべきであり、「誠実」に落としきれなかった。
- ▲児童は積極的に発言しているものの、個々の発言につながりがなく、対話の深まりが不十分だった。
- ▲授業の最後に「あすなろノート」に書いたことを発表し、全体で共有した方がいい。

【第1回研究授業 事後検討会を受けての学年部での話合い】

5年 自分に正直に A-(2)正直・誠実

- ①道徳的価値や自分自身の姿を考えさせる工夫について
 - ○「正直・誠実」は児童にとって経験が豊富なため、身近で考えやすい内容項目である。
 - ○体験の掘り起こしが自然と出てきた。
 - ▲児童の経験がたくさん出て考えが拡散した後に、それを「誠実」に収束させるための手立てが必要である。
 - ▲誠実に行動することのよさについて考える時間が不十分で,「誠実」とは何かということについて十分 に深めることができなかった。

<今後の授業に向けて>



◇授業を2時間構成にし,2時間目は教材から離れ,自分の経験を振り返りながら内容項目について再考し、自分を見つめる時間にする。

第1時 教材について対話し、自分の経験を掘り起こす。そして新たな問いを作る。 (内容項目の理解と経験の共有)

第2時 内容項目について再考する。(例:誠実とは何か)

- ◇中心価値を落とすだけでなく、それをスタート地点としてその他の価値に派生させていくことも必要である。本時で扱う道徳的価値が本校の重点内容項目と関連する場合は、その内容項目にも派生させることができるとよい。
- ◇児童の考えをあらかじめ予測しておき、授業での発言がどの内容項目につながっているのかを意識して見取り、教師が整理していくことが必要である。

②対話の進め方について

▲児童は積極的に発言しているが、つながりがなく、単発の発言で終わっている。児童の発言を積み重ね ながら、対話を深めていく必要がある。

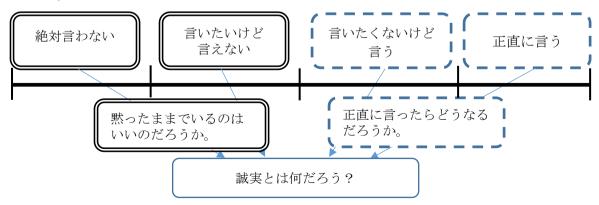
<今後の授業に向けて>



- ◇探究の対話(p4c)のルールにとらわれすぎず,教師が対話にどんどん介入できるよう,ミニコミュニティボールを活用するのもよい。
- ◇自分の立場を明確にさせるための教師の働きかけが必要である。

(例)「あなたはどっちだと思う」「自分ならどうする」「それってどういうこと」

- ◇児童から出た多様な考えや経験を教師が類型化して提示し、自分の考えはどの考えに近いのか、立場を明確にさせる。その後、それぞれの考えについて対話し、考えを深めさせていく。
- ◇ホワイトボードに類型化した児童の考えを書き込み、児童に提示する。黒板にはり、心情スケールと関連させる。



- ◇終末でノートに書かせる際、単純に感想を書かせるだけではなく、書く視点を提示する。
 - ①自分の考えが変わったこと
- ②友達の意見で心に残ったこと
- ③これからの生活に生かしたいこと
- ④疑問に思ったこと

- 1 主題名 親切な心で B-(6)親切,思いやり
- 2 **ねらい** おおかみの気持ちを考えることを通して、親切にすると、相手も自分も温かい気持ち になることに気付かせ、身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとする心情を 育てる。
- 3 教材名 「はしの うえの おおかみ」 出典:「あたらしい どうとく1」 東京書籍
- 4 視点1に基づく手立て
 - ① 役割演技で実際におおかみ役を演じることでいじわるを楽しむ気持ちと親切にしたときの気持ちを感じさせ、親切にしたときの方がよい気持ちになることに気付かせる。
- ② 主人公のおおかみの行動と自分の体験とを結び付けて、簡単な手紙を書くことで自分の考えを 深められるようにする。

段階	学習活動	・指導上の留意点
	(◎中心発問 ○発問 ・児童の反応)	◇評価(方法)
導入	1 親切にしてもらった経験を発表した。	
5分	○友達に、なにか親切にしてもらったこ	・ねらいに関わる生活体験を想起させること
	とはありますか。	で、学習への導入とした。
展開	2 「はしの うえの おおかみ」を聞き, お	
30分	おかみの気持ちを中心に話し合った。	
	(1) 教師の範読を聞いた。	・掲示用挿絵を紙芝居のように提示しなが
		ら,教材本文を読み聞かせた。
	(2) いじわるをするおおかみの気持ちを考	・役割演技を通して、いじわるを楽しむおお
	えた。	かみの気持ちを考えさせた。
	○おおかみは、どんな気持ちで、うさぎ	演じた後におおかみがどんな気持ちだった
	やきつねたちにいじわるをしたのでし	かを聞いた。
	ょうか。おおかみになって考えてみま	
	しょう。	
	(3) くまに親切にされたときのおおかみの	・大きなくまに優しくしてもらったことへの
	気持ちを考えた。	驚きや、本当の優しさに触れ、気持ちが変
		わったおおかみに気付かせようとした。
	(4) みんなに優しく渡してあげるおおかみ	・役割演技を通して,優しくするとよい気持
	の気持ちを考えた。	ちになることを考えさせた。
	○みんなに優しく声をかけて、かかえて	
	渡してあげたとき、おおかみはどんな	
	気持ちだったでしょうか。おおかみに	
	なって考えてみましょう。	

- (5) おおかみがどうしてくまのまねをした のかを考えた。
- ◎なぜ、おおかみはくまのまねをしたのでしょうか。
- ○おおかみさんにやさしくされた動物たちはどんな気持ちだったでしょうか。
- ・おおかみがその行為を選択した動機・理由 を聞くことで、教材には書かれていないお おかみの「心」の中を考えさせるようにし た。
- ・親切にすると,自分も相手もよい気持ちに なることに気付かせようとした。
- ◇親切にする自分の気持ちと相手の気持ちの 両面を考えていたか。(発言)

まとめ 10分

3 優しくなったおおかみに手紙を書いた。

○今までの自分とおおかみを比べて,手 紙を書きましょう。 おおかみの行動を通して、わかったこと や気付いたことを手紙に書くよう声がけ をした。

6 授業の様子



《役割演技》



《ワークシート「おおかみさんへの手紙」》

【役割演技後の話合い】

T:おおかみは、どんな気持ちで、うさぎやき つねにいじわるをしたのでしょうか。おお かみになって考えていきましょう。

(演技後)

- T: それぞれ, どうぶつさんたちはどんな気持ちだったのでしょうか。
- C:楽しかった。C:どきどきした。C:わからなかった。

【おおかみさんへの手紙】

- ・くまさんにやさしくしてもらってうれしかっ たですか。わたしもおおかみさんみたいにや さしくするよ。
- ・(おおかみさん) きっといっぱいおともだち ができるよ。ぼくもおおかみさんみたいにや さしくなるよ。

7 事後検討会の内容(○良かった点 ▲改善すべき点)

- ○導入で使用した紙芝居が児童の関心を引きつけていた。
- ○書く活動は自分の考えをもたせるのに有効であった。
- ○登場人物への手紙という書かせ方は、低学年の児童にとっては考えやすい形であった。
- ▲1回の読み聞かせでは児童が教材の内容を十分に理解できておらず、物語に入り込めなかった。
- ▲役割演技の目的が不明確であった。また、児童が役になりきるための手立て(お面やせりふ)が必要であった。
- ▲1年生の6月では、役割演技を通して動物たちの気持ちを考えさせることは難しかった。その ため、登場人物の気持ちではなく、「楽しかった」等の役割演技に取り組んだ自分の感想を述べ る児童の姿が多く見られた。

【第2回研究授業 事後検討会を受けての学年部での話合い】

1年 親切な心で B-(6)親切、思いやり

①導入の場面, 役割演技について

- ○導入で使用した紙芝居が児童の関心を引きつけていた。
- ▲児童が教材の内容を十分に理解できておらず、物語に入り込むことができていなかった。
- ▲役割演技の目的が不明確だった。そのため、役割演技についての対話の場面では、登場人物の気持ちでなく、役割演技をした感想を述べる児童の様子が見られた。



<今後の授業に向けて>

- ◇児童が本時で教材について考えを深めることができるようにするため、事前に教材の読み聞かせ を行う。
- ◇役割演技では登場人物になりきって演技ができるように、お面や名札を使い、場の雰囲気を作る。 また、役割演技のせりふを書いたカードを児童に持たせ、それを見ながら演技させる。
- ◇教材と同じ条件で役割演技をさせるだけでなく、違う条件を設定して取り組ませ、違いを児童に 考えさせるのもよい。
- ◇役割演技後に演技をした児童だけではなく、演技を見ていた児童にも登場人物の気持ちを考えさせ、発表させる。

②対話. 終末の場面について

- ○書く活動は自分の考えをもたせるのに有効である。また,登場人物への手紙という書かせ方は, 低学年の児童にとって考えやすい。
- ▲1年生の6月では、理由を付けて自分の考えを述べることは難しいため、発問に対する発言が「楽しかった」「びっくりした」などの抽象的な内容にとどまっていた。
- ▲書く活動はこの時期の1年生には難易度が高い。



<今後の授業に向けて>

- ◇児童のつぶやきを教師がひろい,「それってどういうこと」「どうしてそう思った」など掘り下げていく必要がある。
- ◇「○○さんはどう思う」とインタビュー形式で、教師が児童に意見を求めていく。
- ◇児童の意見に対して教師が反対の立場から発言をし、児童に反論させながら発言させていくのもよい。
- ◇低学年では役割演技をする前に、登場人物のせりふを考えさせてワークシートに書かせたり、発 間に対する自分の考えを書かせてから発表させたりと、書く活動を行うタイミングを吟味する。

- 1 主題名 友達のために B-(9)友情・信頼
- 2 ねらい 「ぼく」とマナブの気持ちを考えることを通して、身近にいる友達と仲良く過ごし、助 け合っていこうとする態度を養う。
- 3 教材名 「ともだちやもんな、ぼくら」 出典:「新しい どうとく2」 東京書籍
- 4 視点1に基づく手立て
 - ① 児童が「マナブ」役、教師が「ぼく」役の役割演技を取り入れることによって、助けに行きた いという気持ちはあるがかみなりじいさんが怖くて行けないという葛藤を感じさせる。
 - ② 心情スケールを用い自分だったらヒデトシを助けに行くか行かないかを考えさせることによっ て、自分の立場を明確にすることができるようにする。
 - ③ 友達との付き合い方について、これまでの自分を振り返ったり、これからの自分について考え たりしたことを「あすなろノート」に書かせることによって、自己理解を促すようにする。

段階	学習活動	・指導上の留意点
	(◎中心発問 ○発問 ・児童の反応)	◇評価(方法)
導入	1 友達と助け合ったことを発表した。	・ねらいに関わる生活体験を想起させること によって、学習への導入とした。
5分	○友達と助け合ったことを発表しましょう。	によりて、子自への導入とした。
展開	2 「ともだちやもんな,ぼくら」の内容を	・掲示用挿絵や登場人物のネームカードを提
30分	話し合った。	示しながら,内容を確認できるようにした。
	(1) 教材の内容を確認した。	・「ぼく」の心の葛藤について考えさせ,児童
	(2)迷っている「ぼく」の気持ちを考えた。	の発言を板書した。
	○「ぼく」は、(どうしよう・・・、どう	・次の役割演技に続く重要な部分なので、「ぼ
	しよう・・・。)と何を悩んでいるので	く」の迷いに共感できるように補足した。
	しょうか。	
	(3)役割演技を通して、2人の気持ちを	・「ぼく」の考えには同意しない立場として、
	考えた。	問い返しをしたり揺さぶったりして、より
	○役割演技をして、「ぼく」とマナブの	「ぼく」の葛藤を理解させるようにした。
	気持ちを考えましょう。	・役割演技を見ている児童にも、2人の葛藤
		について考えるように促した。
	(4) 自分だったらどうするかを考えた。	・自分の考えを明確にして、心情スケールに
	◎自分だったら、ヒデトシを助けに行き	ネームカードを貼らせ、考えの根拠を発表
	ますか、それとも助けに行きませんか。	させた。
		・怖くて勇気が出せない気持ちと、それでも
		助けに行こうとする気持ちの両方を認める
		ようにした。
		◇自分だったらどうするかという立場で考え ていたか (☆ まま)
		ていたか。 (発言,表情)

- (5) 友達と助け合うのはどうしてかを考えた。
- ○友達と助け合うのはどうしてでしょうか。
- ・友達と助け合うのはなぜか、理由を考えさせることによって、普段の学校生活につなげられるようにした。
- まとめ 3 友達との付き合い方で、考えたことや心 10分 に残ったことをあすなろノートに書かせ、 発表させた。
 - ○友達のことについて考えたことを,「あすなろノート」に書きましょう。
- ・これまで、友達とどのように生活してきたか、またこれからどんなことに気を付けて友達と生活していくかについて、考えを書かせることで道徳的実践への意欲を高めようとした。
- ◇友達と助け合うことのよさについて,自 分のこれまでの経験から考えていたか。

(ノート, 発言)

6 授業の様子



《役割演技》



《あすなろノート》

【役割演技の様子】

C1: ヒデトシを助けに行こうよ。

T:かみなりじいさんが怖くて行けないよ。 C1:ぼくたちも悪いのだから。友達でしょ。 T:じゃあ一人で行ってよ。勇気が出ないよ。

C2: 怖くて行けないな。

T: そんなこと言わないで助けに行かなきゃ。 ヒデトシー人でずっと泣いているよ。

C2: 怒られるのが嫌だな。

【「あすなろノート」への記述】

- ・友達と助け合ったり教え合ったり、遊びに 誘ったときに「いいよ」と言われるとうれ しいから、そうやっていきたいです。
- ・友達が困っていたら助けたい。自分が困ったときに助けてくれるかもしれないから。
- ・友達だから、助けてあげると仲よくなれるから助け合うのは大切だと思う。
- ・友達がいなければ何もできないから。・

7 分科会での指導助言 (宮城県大河原教育事務所 次長 我妻聡美 指導主事)

- ・指導案に、教師の願い(指導観)が明記されるとよい。
- ・役割演技はよい方法であるが、問い返したり揺さぶりをかけたりすることで、違いを明確にし、 様々な角度から考えさせることが大事である。
- 「あすなろノート」に児童の考えを書かせる際の観点を明確に示すことが必要である。
- ・「あすなろノート」の記述で評価も行うが、授業のどの場面で評価するかを考えながら授業を進めていくことが必要である。

8 事後検討会の内容(○良かった点 ▲改善すべき点)

- ○資料の事前読み聞かせによって、内容をよく理解していた。
- ○児童対教師の役割演技は、低学年には有効であった。
- ▲心情スケールで自分の立場を明確にするのはよいが、話合いを経て考えが変化していくこともあるので、考えの変化を表すことも必要である。

【第3回研究授業 分科会を受けての学年部での話合い】

2年 友達のために B-(9) 友情・信頼

- ①「事前読み聞かせ」について
 - ○教材の事前読み聞かせによって,内容をよく理解していた。
 - ○児童は、難しい語句の理解もしていたため、すぐに本時の展開へと進むことができた。

<今後の授業に向けて>



◇読み聞かせの際に、発問しながら内容や語句を確認したことが今回の成果につながった。今後も 教材に合わせた取組を行っていく。

②「役割演技」について

- ○児童対教師の役割演技は、低学年には有効であった。
- ▲役割演技における教師のせりふを精選し、児童の考えを大きく揺さぶることが必要であった。

<今後の授業に向けて>



- ◇小道具(名札やお面など)を活用することによって、役割演技に取り組みやすくする。
- ◇即興でせりふを言わせるのは、時間配分も考えて2~3つまでにおさえておくとよい。

③「心情スケール」について

- ○心情スケールで自分の立場を明確にするのはよい。
- ▲話合いを経て考えが変化していくこともあるので、考えの変化を表すことも有効である。心の変化を見取るのであれば、役割演技の前に取り入れてもよかった。

<今後の授業に向けて>



◇心情スケールで自分の立ち位置をはっきりとさせてから、終末段階の書く活動に再度取り組むというように、どう活用するか、どんな目的で活用するかをはっきりさせることが大切である。

④終末の場面・書く活動について

▲展開・終末段階の発問と、「あすなろノート」に書かせるための指示が曖昧だったために、児童が 迷っていた。発問の意図を明確にすることや書かせるための観点を示すことが必要であった。

<今後の授業に向けて>



◇書かせるための観点は、低学年では「主人公にあてた手紙」などの手法を使うことによって、自分の考えを書かせやすくすることができる。ただ、2年生では、教材から離れ一般化して、「友達に優しくすることについて、どう思うか」や「友達との関係について今日の授業で考えたことを書きましょう」など視点を提示し、書かせることに取り組んでいく。

(4)第4学年 平成30年7月12日(木) 授業者 T1 長橋政之 T2 小池裕也

- 1 主題名 けじめのある生活 A-(3)節度,節制
- 2 ねらい これまでの体験や話合いを通して、自分にできることをしようとする心情を育てる。
- 3 教材名 「いっしょになって、わらっちゃだめだ」 出典:「新しい道徳4」 東京書籍
- 4 視点1に基づく手立て
 - ① 家庭学習で教材を読み、「あすなろノート」に授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもって対話を進められるようにする。
 - ② 「なぜなら〜」のツールキットを活用することによって、自分の立場を明確にし、考えの根拠を明らかにして発表できるようにする。また、予想される反応を類型化し、問い返しを予め教師が何パターンか準備することによって、価値理解、人間理解、他者理解、自己理解がより深まる対話を進められるようにする。
- ③ 自分のこととして考える際に、ネームカードを使って集団の中の自分の立場を可視化させることによって、友達の考えとの違いを理解させ、多面的・多角的な見方につなげさせる。
- ④ 授業の最後に対話を振り返り、友達の心に残った意見を記入させたり、本ときの授業を通して考えたりしたことを「あすなろノート」に書かせることによって、多面的・多角的な考え方や自己内対話、自己理解を深める手立てとする。

段階	学習活動	・指導上の留意点
	(◎中心発問 ○発問 ・児童の反応)	◇評価(方法)
事前	【家庭学習】	・教材を事前に読ませ,授業で話し合いたい課題を
	・資料を読み、感想とみんなで考え	考えさせることによって、児童が課題意識をもつ
	たい課題を「あすなろノート」に	ことができるようにした。
	記入した。	・課題に対する考えを「あすなろノート」に書かせ,
		自分の考えをもって授業に臨むことができるようし
		た。
	【朝の活動】	
	・各自が考えた課題の中から、教師	
	が3つに選択しておき、本ときで	
	話し合う課題を全員で決めた。	
	・本ときの課題に対する自分の考え	
	を書いた。	
本とき	1 教材の内容を確認した。	・黒板に掲示用挿絵と台詞や場面の流れが分かるよ
導入		うに貼っておき, 流れの確認を短とき間で行った。
5分	0 数针大甘口 旧辛松强/大温店口	「おぼわさ」、しょるい。まま、「そば田」、古
展開	2 教材を基に、児童が選んだ課題に ついて対話した。	「なぜなら~」というツールキットを活用し、自ハの表えの担切な明さればして変素されるように
35分		分の考えの根拠を明らかにして発表させるように , , ,
	○なぜ、周りにいた子たちが一斉	した。
	にぼくを見たのか。	

◎「ぼく」がだまって教室を出ていったのは、どんなことを考えたからでしょう。

○もし、「ぼく」が自分だったら 何ができるだろうか。

・自分だったら,周りに言えるか, 言えないかをネームカードを使 い,意思表示した。

3 心に残った友達の意見と感想を

ノートにまとめ、共有する。

・予想される子どもの発言を類型化しておき,話合い が深まらないときは予め準備した問い返しを教師が 行った。

・ネームカードを用い、自分の立場を意思表示し可視 化させることによって、友達との考えの違いを理解 させるきっかけとした。そして、具体的な理由を考 え説明させることによって、それぞれの立場につい ての理解を深められるようにした。

・「自分だったら」と問うことや問い返しによって, 今までの自分の経験や考えを振り返り,自己を見つ められるようにした。

◇よく考えて、自分にできることをしようとする大切さについて考えていたか。(発言、ノート)

6 授業の様子

まとめ

5分

○「ぼく」がだまって教室を出ていった理由について考える場面での話合い ※**問い返し**

T1:ぼくがだまって教室を出ていったのは、どんなことを考えたからだろう。

C1 (ゆうじをモンキーと呼んでいたから、自分の中ではちょっと雰囲気が嫌だった。

C2: みんなが笑っているから、一緒にいると笑っちゃうかもしれなかったから。

C 3 : みんなと似ていて、雰囲気に負けてしまって流されてしまって悪口を言っちゃいそう。

T1: ぼくは、やめなよって言いたいの?言いたくないの?

C4: 言いたくないけど雰囲気に流されちゃう。

予想した反応 A

T1: それはいいのかな?雰囲気に流されて。 笑われているゆうじを置いていって?

C5: おいていっちゃいけないけど, 自分一人じゃゆうじを助けられない。

自力 人しやゆうしを助けられない。

C6:似ていて,みんなが笑っているから, ぼく一人じゃかなわない。



《円座での話合いの様子》

○もし、「ぼく」が自分だったら何ができるだろうかについて考える場面での話合い ※問い返し

T1:みんななら、直接「やめなよ」って言えるかな?

【自分だったら言えるか、言えないかをネームカードを使って意思表示させた。】

- C 1(: みんなの前でもだめなことはだめと言わないといけない。言わないとまたやるかもしれないから
- C 2: C 1 と一緒で、言わないとそのまま嫌な気持ちだし、友達が悪口を言うから。
- C 3: 言えると思う。言わないとゆうじがからかわれちゃう。

予想した反応A

- T2:何十人もの前で本当に言える。 ←
- C1:言える。注意してもやめないなら何十人の 前でも言わないといけない。
- C4:似ていて、言わないとその人がかわいそう。 学校に来なくなったりするかもしれないし。
- C5:言いたい気持ちもあるけど,何十人もの前では無理。
- C 6:言うかもしれないけど,自分がそれでいじめられるとしたら,その子を助けたいけど自分もいじめられるのは怖い。
- C7:言える。悪いことをしているんだからはっき りと言わないといけない。



《ネームカードの活用》

7 指導助言(宮城県大河原教育事務所 副参事 古積 裕一 指導主事)

- ○指導案に記載されている教材の内容項目は、学習指導要領の内容をよく押さえている。
- ○児童は「あすなろノート」に自分の考えをしっかり書くことができていた。「あすなろノート」 への記述は評価と結び付くので蓄積していくとよい。
- ▲指導案の児童についての内容は、児童の実態を受けてどのような子どもたちにしたいかといった 教師の願いを記述するとよい。
- ▲みのるとぼくの関係をよく理解して考えさせるために、場面をしっかりと押さえておく必要がある。
- ▲教材の価値について、現状を捉えさせ内省させることが大切である。
- ▲T2の動きについて、指導案の学習過程の中に明記するとよい。

8 事後検討会の内容(○良かった点 ▲改善すべき点)

- ○根拠をもって話すためのツールキット「なぜなら」を活用して学習を積み重ねたことによって, 本ときでは児童が進んで根拠付けて話す様子が見られた。
- ○ネームカードを使った意思表示をしたことによって、自分の考えが明確になり、探究の対話による考えの変化が視覚的に分かりやすかった。
- ○児童の反応に対する問い返しを吟味したことによって,本時の児童の考えに問い返すことができた。
- ▲発問ごとの話合いの落としどころを指導者側で設定していたが、児童の考えが拡散し、収束させられなかった。
- ▲振り返りの発問「自分なら何ができるのか」について、「言える」「言えない」の二択で話合いが進んでいたため、具体的な考えが出されなかった。二択で意思表示をさせた後の問い返しが必要だった。

【第4回研究授業 分科会を受けての学年部での話合い】

4年 けじめのある生活 A-(3) 節度・節制

①ツールキット「なぜなら」の活用

- ○根拠をもって話すためのツールキット「なぜなら」を活用して学習を積み重ねたことによって, 本時では児童が進んで根拠付けて話す様子が見られた。
- ○根拠付けて話す習慣が身に付いており、話すことが好きな児童に育っている。

<今後の授業に向けて>



◇根拠をもって考えを伝えることが日常化するよう, 引き続きツールキット「なぜなら」を活用する。

②ネームカードを使用した意思表示

- ○ネームカードを使った意思表示をしたことによって,自分の考えが明確になり,探究の対話による考えの変化が視覚的に分かりやすくなった。友達の考えと比較して考えたり,自分とは異なる友達の考えに耳を傾けたりする児童の様子が見られた。
- ▲本時では終末の場面で意思表示を行ったが、考えの変化を実感させるには意思表示させる場面 を吟味する必要がある。

<今後の授業に向けて>



- ◇途中で考えが変わった児童に対して、考えが変わった根拠を伝えさせる。
- ◇考えの変化が視覚的に分かるよう、教材によっては導入時と終末時の2回意思表示を行ったり、 主発問に対する意思表示と終末時の意思表示の違いを見取ったりする。
- ◇児童の考えの微妙な振れ幅を見取るために、意思表示の仕方を吟味する。

③反応の類型化と問い返し

- ○児童の反応に対する問い返しを事前に準備しておくことによって,本時の児童の反応に問い返すことができた。このことから,児童の考えに一層深まりが見られるようになった。
- ▲発問ごとの話合いの落としどころを指導者側で設定していたが、児童の考えが拡散し、収束させられなかった。
- ▲振り返りの発問「自分なら何ができるのか」について、「言える」「言えない」の二択で話合いが進んでいたため、具体的な考えが出されなかった。二択で意思表示をさせた後の問い返しが必要だった。

<今後の授業に向けて>



- ◇児童の考えを収束させ本時の価値に迫るためにも,明確な指導観をもった問い返しが求められる。 そのために,対話のルールにとらわれない教師の動きを工夫し,1単位時間の中で話合いを通し て教材の価値に迫ることのできる授業づくりを行う。
- ◇価値についての児童の考えを多様化させるために、教師が意図的に問いを投げかけ、児童に考え を再度見つめ直すきっかけを与える必要がある。

(5)第6学年 平成30年8月28日(火) 授業者 T1 佐藤史子 T2 日下美緒

- 1 主題名 明るく生きる A-(2)正直、誠実
- **2 ねらい** どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようという心情を育てる。
- 3 教材名 「手品師」 出典:「新しい道徳6」 東京書籍
- 4 視点1に基づく手立て
 - ① 家庭学習で教材を読み、「あすなろノート」を使って授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもって対話を進められるようにする。
 - ② ツールキットや心情スケールを活用することによって、自分の立場を明確にし、考えの根拠を明らかにして発表できるようにする。また、予想される反応を類型化し、問い返しを予め教師が何パターンか準備することによって、価値理解、人間理解、他者理解、自己理解がより深まる対話を進められるようにする。
 - ③ 授業の最後に対話を振り返り、対話の中で心に残った友達の意見や考えが変わったことなどを書かせることによって、多面的・多角的な考えに気付かせる。また、本時の授業を通して考えたことを書かせることによって、自己と対話させ、自分自身の姿を見つめ直し、自己理解を深めさせる。

5 5	目 N型 1 ±	
段階	学習活動	・指導上の留意点
	(◎中心発問 ○発問 ・児童の反応)	◇評価(方法)
事前	【家庭学習】	・教材を事前に読ませ、授業で話し合いたい課題
	・資料を読み、感想とみんなで考えた	を考えさせることによって、児童が課題意識を
	い課題を「あすなろノート」に記入	もつことができるようにした。
	した。	・課題に対する考えを「あすなろノート」に書か
		せ、自分の考えをもって授業に臨むことができ
		るようした。
	【朝の活動】	
	・各自が考えた課題の中から,本時で	
	話し合う課題を全員で決めた。	
	・本時の課題に対する自分の考えを書	
	いた。	
本時	1 教材の感想を共有した。	・教材を事前読みした感想を書かせたものを意図
導入	一致的の心思と八百つた。	的に数名に指名して発表させ、全体での共有を図
5分		った。
展開	2 教材を基に、児童が選んだ課題につ	・心情スケールを用いて自分の考えを可視化させ
35分	いて対話した。	ることによって,立場を明確にして話すきっか
	○なぜ手品師は大劇場に行かず	けとした。また,同じ考えの友達がいることが
	に男の子との約束を守ったのか。	分かり安心して話をすることができた。

・予想される子どもの発言を類型化しておき、話合 ◎たった一人のお客さまの前で いが深まらないときは予め準備した問い返しを 手品をしているとき,手品師はど 教師が行った。 んなことを考えていたのか。 ・ツールキットを活用し、自分と友達の意見を比較 しながら自分の考えを深めさせた。 3 教師の説話をもとにした対話をし た。 ・教師の説話をもとに、より身近なこととして自分 ○とても迷って決めるって、どん に正直であることや誠実さについて考えを深め なこと? させた。 ◇自分自身に誠実であることについて話し合って いたか。(話合いの様子,発言) ◇誠実に行動することの大切さについて、自己を まとめ 4 心に残った友達の意見や考えが変 見つめていたか。(発言,ノート) わったこと. 感想等をノートにま 5分 とめ、全体でも共有した。

6 授業の様子

○なぜ手品師は大劇場に行かず男の子との約束を守ったのかについて考える場面での話合い

※心情スケールを使って立場を明確にして話す

T1:手品師は約束を守ったけど、自分だったらどうするか心情スケールにネームカードを置いてみて。

T1:どっちが多い?

C1:約束を守る方。

C2:だけど、貧しかった暮らしが楽になるし、有名にもなるから大劇場に行く。

C3:約束も大事かもしれないけど、売れっ子になるから大劇場に行く。

C4:大劇場に行けばお金持ちになれるかもしれないし。

C5: 大劇場にも行きたいけど、約束もある。男の子がかわいそうだし。

C6:C5と似ていて男の子はひとりぼっちだし、手品師のことを待ってるんじゃない。

C7:約束を破って悲しませたくないし。



《心情スケールの活用》

○たった一人のお客さまの前で手品をしているとき、手品師はどんなことを考えていたのかについて考える場面での話合い ※間い返し

C 1: 大劇場もいいけど、男の子との約束が大事だから満足っていうか、そんな気持ち。

C 2: 男の子との約束を守ったから安心。

予想した反応A

T1:約束ってそんなに大事なの?大劇場に行けば夢も叶うし,生活も保障されるけど? 約束って何で大事なの?

C3: 急にそこに行ってちゃんとできるか不安。

C4:大劇場に行って失敗したらいやだから約束の方に行く。

C5:プレッシャー。

C6:大劇場は夢だったけど, 自分の力で取ったんじゃない。

T2: それでもチャンスをつかまない?

C7:もう一回チャンスが来るかもしれない。だから約束を。

C8:たった一人でも, 喜んでほしい。



《円座での話合いの様子》

7 事後検討会の内容(○良かった点 ▲改善すべき点)

- ○心情スケールを活用することで、安心感が生まれ話すことができていた。立場や根拠をはっきり させて話すことができていた。
- ○教師の説話を展開後半に入れたのはよかった。教材からより身近な子どものレベルで考えられた 説話がよい。
- ○「生き方」についての発言は、一度温めてから問い返したのがよかった。(問い返しのタイミング)
- ○ノートに書くことで、考えを整理できていた。
- ▲心情スケールの場所が児童席からもっと近いとよい。
- ▲心情スケールを用いたときに、児童の心情の変化は求めない。
- ▲ノートに書くときの視点は、もっと具体的でよい。友達の考えを聞いて意見に反映できるとよい。
- ▲相手に対しての誠実,自分に対しての誠実等あるので,いろいろな誠実さについて考えさせると, 多面的・多角的に考える学習につながる。
- ▲「深まり」は、問い返しをして掘り下げていくばかりではない。一つの問いについて、じっくり 対話をしていくことこそが、深まりである。
- ▲一つの問いに対していろいろな考えを述べ、多面的・多角的に考えを広げることは、考え方の枠組みを変えることであり、それが深まりにつながる。

【第5回研究授業 分科会を受けての学年部での話合い】

6年 明るく生きる A-(2)正直・誠実

①心情スケールの活用

- ○心情スケールを活用することによって安心感が生まれ、どの子も話すことができていた。立場 や根拠をはっきりさせて話すことができていた。
- ▲心情スケールは立場を明確にする一方、それにとらわれすぎてしまうこともある。
- ▲授業の途中でネームカードを動かす児童がいなかった。

<今後の授業に向けて>



- ◇心情スケールを黒板に貼ると、児童が動かしづらい。ホワイトボードなどを活用し、円座の中心 部において、自由に動かせるようにするとよい。
- ◇考えの変容を求めるのではなく、対話をする上で自分の立ち位置を決めるという捉えで心情スケールを活用していく。

②教師の説話

- ○教師の説話を展開後半に入れたことで、自分の生活に引き付けて考えることができた。
- ○人生経験が少ない児童にとっては、教師の経験は身近な問題として捉えることができるもので あった。

<今後の授業に向けて>



- ◇児童から経験談を引き出しにくい教材については、教師の経験を話すことによって児童に身近 な問題として考えさせていく。
- ◇説話の内容によっては、児童を特定の思考に誘導することもあり得るので、説話の内容と話すタイミングを吟味することが大切である。

③T2の役割

- ○児童の発言に対してT2が反例を出しながら問い返すことによって,児童の思考を揺さぶり,多面的・多角的に考えさせることができた。
- ▲T1とT2それぞれから「なぜ」という問い返しを何度も行うと、児童の思考が混乱してしまう可能性がある。

<今後の授業に向けて>



◇事前にT1とT2の役割を明確にし、T2が介入するタイミングを決めておくことが大切である。

④「あすなろノート」の活用

- ○終末場面で考えをノートに書くことで、考えを整理できていた。
- ○対話では出なかった児童の葛藤を、ノートの記述から読み取ることができた。
- ▲友達の考えを聞いて考えたことが、ノートの記述に反映されるといい。

<今後の授業に向けて>



- ◇ノートに考えをまとめるときは、具体的に書くよう指導する。
- ◇対話をして「改めて疑問に思ったこと」や「考えがまとまらなかったこと」も書かせる。

- 1 主題名 本当の友達 B- (9) 友情, 信頼
- **2 ねらい** 対話を通して友達のためにできることを考えたり、友達のことを理解したりすること で、友達とのよりよい関係を築こうとする心情を育てる。
- 3 教材名 「なかよしだから」 出典:「新しい道徳3」 東京書籍

4 視点1に基づく手立て

- ① 家庭学習で教材を読み、「あすなろノート」に感想を書かせることによって、教材への関心をもたせ、主体的に課題設定ができるようにする。
- ② 「なぜ~」で始まる一文で考えさせることによって、教材を読んで疑問に思ったことを課題として書くことができるようにする。
- ③ 「なぜなら~」のツールキットを活用することによって、自分の立場を明確にし、考えの根拠 を明らかにして発表できるようにする。
- ④ 予想される反応に対して、問い返しを予め教師が何パターンか準備することによって、価値理解、人間理解、他者理解、自己理解がより深まる対話を進められるようにする。
- ⑤ ネームカードを使って集団の中の自分の立場を可視化させることによって,友達の考えとの違いを理解させ,多面的・多角的な見方につなげる。
- ⑥ 授業の最後に対話を振り返り、本ときの授業で考えたことを「あすなろノート」に書かせることによって、自己内対話させ、考えたことを日常生活に生かせるようにする。

-		
段階	学習活動	・指導上の留意点
	(◎中心発問 ○発問 ・児童の反応)	◇評価(方法)
事前	【家庭学習】	・教材を事前に読ませ、授業で話し合いたい課題
	・教材を読み、感想と自分で考えた	を考えさせることによって、児童が課題意識を
	課題を「あすなろノート」に記入	もつことができるようにした。
	した。	
	【朝の活動】	
	・みんなで話し合いたい課題を考え、	・課題に対する考えを「あすなろノート」に書か
	全員で選んだ。	せ、自分の考えをもって授業に臨むことができ
	・選んだ課題に対する自分の考えを	るようにした。
	「あすなろノート」に記入した。	
	・「友達のためになること」をした	
	経験を想起させた。	
本とき	1 教材の内容を確認した。	・黒板に掲示用挿絵とせりふや場面の流れが分か
導入		るように貼っておき、教材の内容を理解させた。
5分		
展開	2 教材を基に、児童が選んだ課題につ	「なぜなら~」というツールキットを活用し、自
35分	いて対話した。	分の考えの根拠を明らかにして発表させるよう
	○なぜ、「ぼく」は自分でできる	にした。
	のに宿題をやってこなかったの	・問い返しをしたことで,忘れてきた「ぼく」か
	か。	ら親友の実さんのことに視点を変えて対話させ
		た。

○あなたは、怒った「ぼく」の気
持ちが分かりますか?分かりま
せんか?

- ・心情スケールを用いて,自分の考え をネームカードで意思表示した。
 - ◎「友達のためになること」とは、どんなことだろうか。
- ・課題に対する「ぼく」について、自分はどう思 うかをネームカードで意思表示させ、友達の考 えとの違いを理解させた。
- ・教材の実さんの行動から気付いたことを踏まえ て「友達のためになること」について考えさせ た。
- ・「たとえば?」という問い返しをすることで、友 達のためになる具体的な行動も考えさせた。
- ・T2が児童の考えをホワイトボードに書き出し 円座の中心に提示することで、児童が友達の考 えをもとに思考を深められるようにした。
- ・反応に対する問い返しを行うことで、多様な考えを引き出せるようにした。

まとめ 5分 3 自分が考える「友達のためになる こと」とは何かをノートにまとめ, 共有した。 ◇対話を通して友達のよさを発見したり、友達のことを理解したりすることで、友達とのよりよい関係の在り方を考えていたか。

(発言・ノート)

6 授業の様子

○「友達のためにできること」ついて考える場面での話合い ※問い返し

C:貸してあげないと遊ばないって言われて遊べなくなるかも。

予想した反応C

- T2: 忘れてきた人が悪いと思うのに、貸さないって言われたから遊ばないっていうのは本当の友達って言えるのかな?
- C: 言えない。貸さないって言うだけで遊ばないのは違う。
- C: Cと似ていて, 貸さないって言っただけでそういういじめみたいなことをするのはおかしい。
- C: 言えない。なぜかというと貸さないって言うのは友達に対して悪い。
- C:人が使っているときに貸してって言うと, …それが結 局遅くなって自分ができなくなるから…。
- C: 言えない。なぜなら自分が持ってくるのを忘れていて 自分が悪いから…。
- C:言えない。なぜかというと、貸さないって言われて遊ばないのは違う。



《円座での話合いの様子》



《ネームカードの活用場面》



《振り返りをノートに書く場面》

7 指導助言 宮城教育大学 教授 田端 健人 先生(○良かった点 ▲改善すべき点)

- ○探究の対話は、様々な意見が許される。子どもの発達の段階については言及できない。「楽しい」 が基本である。
- ○探究の対話をしている子どもに対する尊敬の気持ちをもった。ボールがあろうが、なかろうが、 子どもの姿がよい。
- ○本ときでは、話の論点がずれていく児童が見られた。しかし、見方を変えれば思考が次々と展開していることになる。その児童は、対話中に自分から問いを立てていた。他の児童もできるようになるとよい。
- ▲ハワイのワイキキ小学校と比較すると、日本の道徳の学習では教師が発問し児童が答えていく流れが多い。教師が持っているイニシアチブを子どもに委ねていく必要がある。教師の中で授業の流れがつながっていても、子どもの思考では別のことでつながっているかもしれない。子どもの思考は教師が把握しきれるものではなく、そのような思考を培っていくことが、学力向上につながり、日常生活に生かされていくと考える。

8 事後検討会の内容

- ○事前読みの習慣を身に付けさせたことで、3年生でも自分で課題を考えることができていた。
- ○ツールキットを活用したことで、「なぜなら~」を用いて自分の考えを根拠付けて伝えることができていた。また、「たとえば~」を用いて具体的な考えを伝えることができていた。
- ○「友達のためになること」について、児童は話し合ったことを振り返りながら「あすなろノート」 へ考えたことを記入することができていた。
- ○条件を変えた問い返しをしたことで、児童の多面的な考えを引き出すことができた。
- ▲児童が選ぶ課題を価値に迫ったものにするために,事前の選び方を吟味する必要がある。「読めば分かる課題」よりも,「みんなで考えたい課題」を選ぶようにしたい。
- ▲内容項目について、学年間の系統性を確認し授業づくりに生かす必要がある。どの学年で、どこまで価値を深めればよいかを理解することで、教材がもつよさを発揮することができるのではないか。中学年における内容項目「友情、信頼」は、友達と互いに理解し信頼し合うことまで考えを深めさせたい。そのため、教材文中の「ぼく」目線だけでなく、実の目線も大切にしたい。
- ▲ホワイトボードの活用方法を吟味したい。児童の考えを書き出すだけでなく, 比較したり分類したりする工夫が必要である。
- ▲振り返りの発問で話し合う内容が主発問の中で重複していたため省略したが,あえてもう一度問いかけることによって理解が深まったのではないか。
- ▲終末部で予定していたT2の体験談も省略したが、予定通り行ったほうがよかった。児童の体験 だけでは価値の理解は深まらないため、教師の体験談を基に話し合うことが必要である。

【第6回研究授業 分科会を受けての学年部での話合い】

3年 本当の友達 B-(9)友情,信頼

①事前読みと課題の設定

- ○事前読みと課題設定を家庭学習に位置付け習慣化させたことで、3 年生の発達の段階でも自分で課題を考えることができていた。
- ▲児童が選ぶ課題を価値に迫ったものにするために、事前の選び方を吟味する必要がある。

<今後の授業に向けて>



- ◇事前読みと課題設定は学年が上がっても継続するものなので、引き続き習慣付けていく。
- ◇事前に課題を選ぶ場合は、「教材を読めば分かる課題」よりも、「みんなで考えたい課題」を選ぶようにしたい。

②ネームカードを使用した意思表示

- ○ネームカードを使った意思表示をしたことによって,自分の考えが明確になり,対話による考え の変化が視覚的に分かりやすくなった。
- ▲本時では、心情の変化を比較するような複数回の提示の仕方ができなかった。
- ▲教材や内容項目によっては、二観点で考えにくいものがある。

<今後の授業に向けて>



- ◇心情の変化を視覚的にとらえ、対話に生かせるよう、教材によっては1単位時間に2回意思表示をさせる。
- ◇教材中のどの人物のどの行動について意思表示をさせるのか,内容項目を明確にした上で検討する.

③反応の類型化と問い返し

- ○条件を変えた問い返しをしたことによって、児童の多面的な考えを引き出すことができた。
- ○予想される児童の反応を3パターンに分けたことによって、反応に対する問い返しを投げかけるタイミングが明確になった。
- ▲問い返しを受けた児童の反応に対する,価値を深めるための問い返しを考えることによって,友達を意識した話合いが深まったのではないか。
- ▲対話の論点が逸れたときに,教師による軌道修正のための問い返しが必要である。

<今後の授業に向けて>



- ◇問い返しをした後の児童の反応を予測し、価値の理解につながるまでの問い返しを考える。
- ◇本時の対話の軸を教師が明確に押さえておき、児童の反応に対する問い返しを考える際も対話の軸を中心に考えるようにする。対話中に論点が逸れた場合は教師が軌道修正していく。
- ◇児童の体験だけでは価値の理解が深まらないため、教師の体験談から対話を展開していくことも必要である。